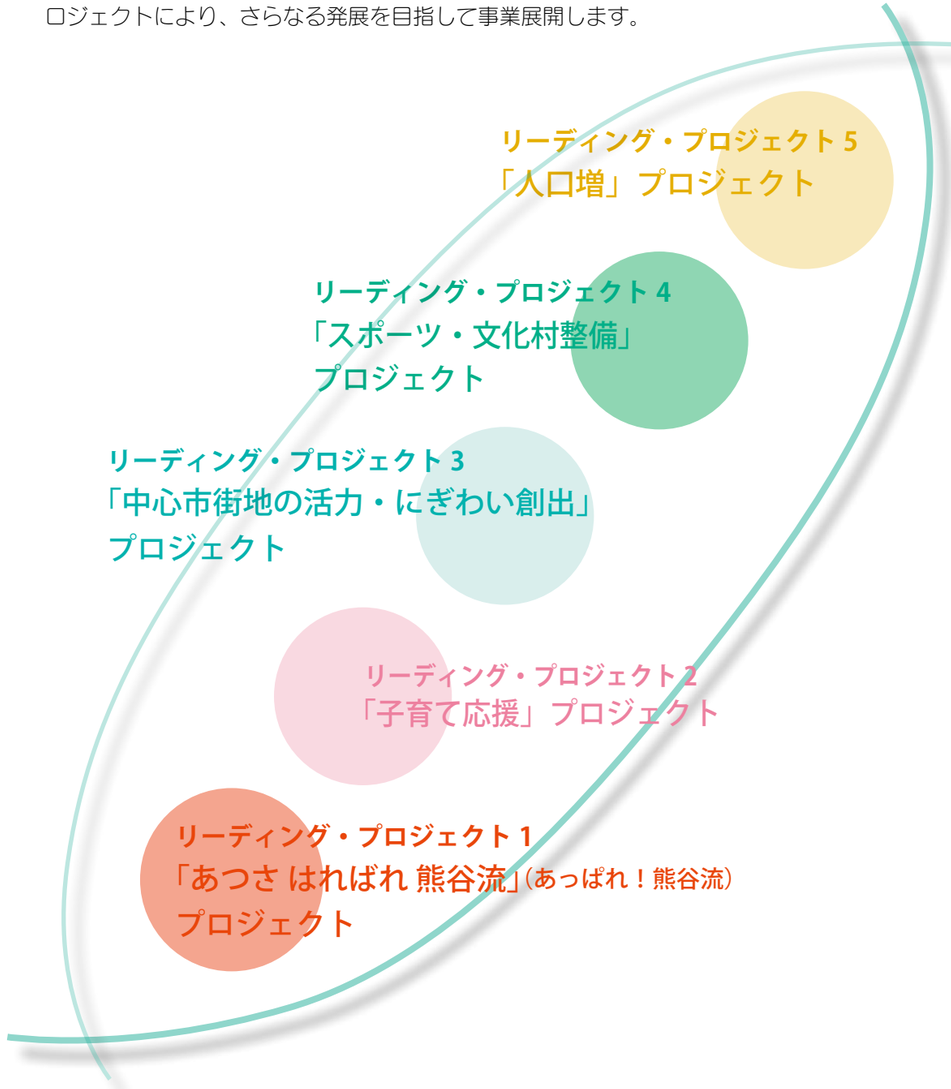
第10章　リーディング・プロジェクト

前期基本計画では、将来都市像「川と川 環境共生都市 熊谷」を実現するため、特に重要性と先導性の高い横断的な政策として、「あつさ はればれ 熊谷流」プロジェクト、「子育て応援」プロジェクト及び「人口増」プロジェクトの３つのリーディング・プロジェクトを位置付け、積極的な事業展開を進めてきました。

後期基本計画では、前期基本計画で掲げた３つのリーディング・プロジェクトを引き続き実施するとともに、中心市街地活性化を目指す「中心市街地の活力・にぎわい創出」プロジェクト、スポーツ・芸術・文化活動の拠点となる「スポーツ・文化村整備」プロジェクトを加え、５つのリーディング・プロジェクトにより、さらなる発展を目指して事業展開します。



リーディング・プロジェクト１
「あつさ はればれ 熊谷流」（あっぱれ！熊谷流）プロジェクト

夏の暑さを、人やまちの活力に変えていこうという「あついぞ！熊谷」の取組は、国内最高気温40.9℃（平成19年８月16日に観測）とともに、全国的に知られるところとなりました。

平成22年度からは、「暑さ対策プロジェクトチーム」を立ち上げ、市民を暑さから守る熱中症予防に向けた様々な健康対策に取り組んできました。

引き続き、市民の健康管理や、暑さと快晴日数を地域資源ととらえた地域活性化と情報発信の取組、温暖化防止に向けた取組などを包括した熊谷流の環境共生型ヒートアイランド対策である「あつさ はればれ 熊谷流」プロジェクトを推進します。

また、熊谷商工会議所、熊谷青年会議所等と連携し、家庭や地域での節電や熱中症予防のほか、地域コミュニティの育成や地域活性化にもつながる「クールシェア」運動を促進します。

あっぱれ！熊谷流

「あつさ はればれ 熊谷流」（あっぱれ！熊谷流）

1　冷ませ！熊谷（まちが暑くならない対策を講じます）
2　天晴！熊谷（快晴日数日本一を活用します）
3　アピール！熊谷（商品開発、環境イベント招致に取り組みます）
4　扇げ！熊谷（温暖化防止の取組を応援します）
5　なるほど！熊谷（暑さ対策に関する情報を提供します）

主な事業

- あっぱれ・冷ませ・壁面緑化推進事業
- あっぱれ・冷ませ・小中学校みどりのカーテン整備事業
- あっぱれ・天晴・熊谷駅広場冷却ミスト事業
- あっぱれ・天晴・太陽光発電等普及推進事業
- あっぱれ・アピール・あついぞ！熊谷事業
- あっぱれ・アピール・FM-NACK5 番組放送事業
- あっぱれ・扇げ・温暖化防止活動推進センター事業
- あっぱれ・なるほど・熱中症予防事業
- 「暑さ対策」暑さにまけるな中学生事業
- 「暑さ対策」まちなかオアシス事業
- 「暑さ対策」熱中症予防グッズ配布事業
- 「暑さ対策」デジタルサイネージ設置事業
- 「暑さ対策」涼しさ体感アート事業

リーディング・プロジェクト 2
“ 子育てするなら熊谷市 ”「子育て応援」プロジェクト

子どもは社会の宝といわれていますが、社会構造の変化や結婚・出産に対する意識の変化により、少子化が進んでおり、子どもの成長に合わせた教育環境や支援体制の充実が欠かせません。

後期基本計画策定にあたり、前期基本計画策定時の人口推計と平成 24 年 1 月 1 日現在の人口を年代別に比較したところ、子育て世代の男女と年少の男女に、推計値を大きく上回っている階層が確認できました。

これは、前期基本計画期間において、子育て支援拠点や放課後児童クラブの整備、こども医療費や子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン接種費用の無料化、教室へのエアコン設置など、子育て応援のための様々な施策を展開してきた効果によるものと思われます。

このため、引き続き本プロジェクトを推進し、市民が安心して子どもを生み、育てられる環境を整え、福祉・医療・教育からなる包括的な支援を行い、子育てを応援します。

主な事業

- 不妊治療費助成事業
- こども医療費助成事業
- 病児等緊急サポート事業
- ファミリーサポートセンター事業
- ハローエンジェル誕生記念品プレゼント事業
- 放課後児童対策事業、放課後児童保育室整備事業
- 特別支援教育支援員派遣事業
- 小学校・中学校屋内運動場建築事業
- ノーマライゼーション教育推進事業
- 学力向上対策推進事業


子育て広場「なかよし」クリスマス会


くま SUN フェスタ

リーディング・プロジェクト 3
「中心市街地の活力・にぎわい創出」プロジェクト

本市は、江戸時代から中山道の宿場町として、さらに近年は、県北地域の経済や教育・文化の中心都市として発展してきました。特に中心市街地は、人、モノ、情報が集積する場であり、地域社会の核として、人が住み、働き、遊び、交流する場でもありました。

昨今の生活様式の変化や近隣市町への大規模ショッピングモールの出店により、中心市街地では歩行者数の減少や空き店舗数の増加など、活力とにぎわいが次第に失われつつあります。

このため、中心市街地活性化基本計画に基づき、まちなかの活性化・魅力向上に向けた様々な取組を進めます。

中心市街地活性化の起爆剤としては、熊谷駅周辺、仲町・本石周辺の東西２つの商業核の中間に位置する旧テクノグリーンセンター事業用地に、本市の拠点機能の強化や県北地域の活性化、産業の発展と市民生活の向上を目指し、北部地域振興交流拠点施設（仮称）を埼玉県と共同で整備します。

さらに、おもてなし、つながりの理念のもと、まちなかの関係団体が連携して展開する各種ソフト事業とともに、まちづくり会社(注1)が主導する空き店舗・遊休地対策などの中心市街地の魅力向上に資する事業を促進します。

併せて、安心・安全な道路空間の整備や、市内循環バスなど交通施策の見直しを通して、中心市街地への「誘導」、「滞留」、「回遊」を促し、魅力ある「住みたいまち、行ってみたいまち」づくりを進め、県北拠点都市の「街の顔」として、中心市街地の活力やにぎわいの創出に努めます。

主な事業

- 北部地域振興交流拠点施設（仮称）の整備
- 安心・安全な道路空間の整備
- 優良建築物等の整備推進
- 商業活性化の支援
- 「中心市街地活性化」まちづくり会社業務支援事業

①東西 2 つの商業核の強化と中心核としての「産業・交流核」を構築する。
②集客・にぎわいの推進組織として、エリア全体の連携組織を立ち上げる。
③遊休不動産の所有と利用の分離を促進し、生活サポート機能を充実させる。（位置は想定）



注1　**まちづくり会社**：中心市街地活性化基本計画に位置付けられた、まちなか再生に資する事業や各種ソフト事業を実践、コーディネートする組織。

リーディング・プロジェクト 4
「スポーツ・文化村整備」プロジェクト

熊谷市立女子高等学校の跡地及び施設の有効活用のため、小さな子どもから高齢者までの幅広い世代の人々が、生涯にわたってスポーツや文化に親しむことができ、また合宿や研修による宿泊も可能な拠点施設として、スポーツ・文化村の整備を段階的に進めます。

施設は、スポーツの場、学びの場、交流の場という三つのゾーンに分け、スポーツ活動においては育成活動を、文化活動では個々の創作活動を支援することを目的とし、県北地域のスポーツ・芸術・文化活動の交流拠点としての活用を目指します。

主な事業

・スポーツ・文化村の整備・利用促進
・芸術・文化活動の支援
・スポーツ・レクリエーション活動の支援



スポーツ・文化村のイメージ

リーディング・プロジェクト 5
「人口増」プロジェクト

本市は、県北地域の拠点都市として発展し、合併により地域唯一の 20 万都市となりました。一方、少子高齢社会の進行により将来人口は減少すると見込まれ、その流れは本市にも影を落としつつあります。

しかしながら、前期基本計画の取組により、子育て世代の階層では推計人口を上回る傾向も確認できました。

本市がこれからも県北地域最大の都市として輝き続けるため、後期基本計画においても様々な新規施策を盛り込み、人が住み、魅力的で活力ある地域となるよう、引き続き人口増プロジェクトを展開します。

さらに、後期基本計画では、地域の活性化やにぎわいの創出をもたらし、定住人口の呼び水ともなる交流人口の増加にも取り組みます。本市には、歴史、伝統により育まれた「うちわ祭」や「花火大会」などの各種年中行事のほか、広域利用を想定した公共施設が立地し、年間を通じて様々なイベントが開催されています。これらの資産をさらに活用し、人が集い、にぎわい、活気ある地域を目指します。

主な事業

・「あつさ はればれ 熊谷流」プロジェクト
・「子育て応援」プロジェクト
・「中心市街地の活力・にぎわい創出」プロジェクト
・「スポーツ・文化村整備」プロジェクト
・産業の振興（観光振興・企業誘致の促進・商業の活性化）
・スマートタウン事業の推進
・優良建築物等整備事業などによるまちなか居住の促進
・土地区画整理事業の推進
・北部地域振興交流拠点施設（仮称）の整備

